

# 調査研究等事業報告書 (会派用)

一関市議会議員 勝 浦 伸 行 様



報告年月日	令和 7年 1月 7日
実施日(期間)	令和 6年 12月 27日～令和 6年 12月 27日
実施場所 (行先等)	TKP宇都宮カンファレンスセンター
事業区分 (いずれかに○)	○ 研 修 調査研究 要望・陳情活動 会 議
事業内容	地方議員研究会主催の「人口減少対策 特別研修」 ○人口減少と共存する方策 関係人口、活動人口、地域活性化、公民連携等について (講師) 関東学院大学法学部地域創生学科教授 牧瀬 稔 氏
報告者	(会派名) 一関市議会公明党 (代表者) 岩淵 優
参加者	議 員 岩淵 優
報告要旨	1. 目的・・・・・・・・別紙 2. 概要・・・・・・・・別紙 3. 参考とすべき事項・所感・・・別紙
主 要 資料名	「人口減少と共存する方策」

## 別紙

### 1. 目的

地方創生の取組から10年の節目に当たり、これまでに地方自治体に取り組んできたことの総括と今後の方向性について研修するため。  
及び自身のスキルアップを目的とした。

### 2. 概要

- (1) 地域活性化を創出した事例
- (2) 近年の地方創生
- (3) シビックプライドとは何か
- (4) 共創（公民連携）とは何か？
- (5) 共創が進む理由
- (6) 共創の事例

\*詳細は、添付資料「人口減少と共存する方策」を参照願いま

### 3. 参考とすべき事項・所感

- (1) 人口減少時代においても、地域活性化を創出した事例はある。  
事例から分かることは、多様な関係者との共創が、地域活性化の原則である。
- (2) 先進事例は、必ずしも、成功事例ではない。失敗事例も場合もある。  
その事例が成功か失敗かを把握してから、事例を参照すること。失敗事例と判断した場合は、反面教師として活用すること。
- (3) 複数の成功事例から、移転しやすく再現性が高い共通項を見出すこと。
- (4) 必ずしも地域ブランドの成功が、自治体を潤すことにつながらない。  
「ブランド化すれば地域が潤う」という発想は危険である。「地域が潤うようにブランド化していく」という思考が望ましい。
- (5) 地域ブランドランキングが高い自治体が、人口増加していないという現実がある。
- (6) シビックプライド×関係人口＝新しい地方創生の形
- (7) これからの地域づくりのキーワードは、「産学官金労言士」の連携による「共創」である。
- (8) 多様な人たちが、それぞれの立場で地域づくりに携われるような仕組みが必要である。そのためには、どのような範囲を地域とするかがポイントであると考え。また、地域づくりだと感じないような、自然な形が望ましいのではないか。